

押入れ産業社長 森田 浩史氏



海外で活躍した
いという
思いを抱
き就職活
動に臨ん

だ。海外イコール総合商社と
いう勝手な決め付けで先輩訪
問を開始した。どの会社も東
京のど真ん中に立派なビルを
構え、受付の女性にも圧倒さ
れた。

先輩訪問は会社内ではなく
近くの喫茶店。3社訪問し、ト

訪ねた。先輩は会社支給の地
味な上っ張りを着て登場。い
きなり握手を求められた。こ
の時点で少し鳥肌。工場の一
角の質素な打ち合わせコーナ
ーで、面接とは程遠い自身の
夢を熱く語ってくれた。

最後に「モリタ、一緒にやる
ろ！」の握手で鳥肌マックス。
ここに決めた、といってもま
だ先輩訪問の段階だ。それか
ら面接を重ね、役員面接。

役員面接となると、立派な
応接室に通された。待つこと

ワクワクの就職活動

しばし。人事
担当役員と一
緒に現れたの

ントン拍子で面接が進んだ。
3社とも内定が来たが、しっ
くりこない。誰もが知る超有
名会社なのだが、大学に受か

は、あの先輩だった。また会
えた！「聞きたいことはあ
るか」との言葉に、言わなけ
ればならないことがあった。

った時のうれしさ、鳥肌とま
ではいかなかった。ぜいたく
と言われるかもしれないが、

「海外事業をやらせてくだ
さい。できれば今同席してい
るO先輩と一緒に働きたいで
す」。入社式当日、新入社員

悶々としつつ、海外に強い

500人のうち、文系80人の

メーカー

配属先が大講堂で発表され

も訪問し

た。祈る気持ちで発表を待

ようとい

つ。「モリタヒロシ、海外事

で、S社

業本部」やった！大学合格

の先輩を

発表を超える鳥肌が立った。

